

システム開発を標準化するための戦略とは？

2000年前後から企業のTCO(Total Cost of Ownership)削減要求が高まり、これによりシステムのオープン化が進むようになりました。昨今、その流れは基幹系システムにまで及んでいます。しかし、オープン系システムはシステム単位で最適な組み合わせを選択するため、企業内に異なる基盤、異なる方式のシステムが乱立することになり、それが様々な問題をもたらしています。



技術開発本部
ソフトウェア工学推進センター 部長

富安 寛

アプリケーション基盤と開発プロセスの標準化が重要

企業のIT予算における保守運用費の割合には大きな減少が見られず、逆にシステムの保守運用コストは肥大化しています。また、システムの構成要素が複雑化することで、トラブルの原因追及が困難になっています。さらに、運用に起因する障害件数の増加やシステム間連携の複雑化、同一機能への重複投資、業務手順や作業方式の複雑化も生じています。これらの問題を解決するには、システム基盤の統一と標準化を行い、システムの全体最適に向けた信頼性や柔軟性、拡張性、品質の確保が必須です。

一方、オープン系システムの開発は期間も短く、規模も小さいため、技術者の入れ替わりが早く、オフショア化も進んでいます。そこでは、コミュニケーションやスキルレベルへの不安から、ドキュメント整備によりルールを確立するのが一般的です。また、オープン開発では複数のベンダが独自の開発プロセスを持ち込んでプロジェクトを推進するため、横並

びのチェックが困難です。

そこで近年では、こうした状況に対応するために開発プロセスを標準化する動きが出てきています。標準化の効果としては、「円滑なコミュニケーションの実現」「スキル不足の補強」「横並びチェックによる適正な評価」「組織的なノウハウの蓄積」の4つが挙げられます。

標準化においては、ベースとなる方法論等を検討し、それぞれの組織に最適化したシステムを適用しますが、対象範囲が広いほど標準化したプロセスの抽象度は高くなるため、テーラリングして(仕立て直して)使う必要が生じます。また、アプリケーション基盤の標準化と開発プロセスの標準化はセットで実行することが重要になります。

OSS化とサポートサービスで標準化を支援

こうした課題を解決するためにNTTデータでは、アプリケーション基盤と開発プロセスを一体化したソリューション「TERASOLUNA」を提供しています。現在、TERASOLUNAは、Java、

.NET、Ajaxのフレームワークを用意しており、サーバ、クライアントで最適な組み合わせを選択することができます。またTERASOLUNAの開発プロセスは、オープン系開発標準として整備が進められています。

今回NTTデータは、TERASOLUNAの5つのフレームワークと開発プロセスの概要をオープンソース(OSS)化して公開しました。その理由は、アプリケーション基盤と開発プロセスに対する顧客企業の要望の変化にあります。

従来、アプリケーション基盤の導入目的は、個別システムでの品質・生産性の向上でした。ところが最近では、顧客企業全体での品質・生産性の向上を目的としたアプリケーション基盤の統一や開発標準の制定の要望が強くなっています。これに対応していくためには、“NTTデータだけが使える”技術では対応できません。そこでTERASOLUNAをOSSとして公開し、標準化を推進することにしたのです。OSS化のメリットとしては、無償での利用、ベンダロックインの回避、故障解析や機能変更、カスタマイズできる範囲の拡大などが挙げられます。

その上でNTTデータは、公開情報をベースとした標準開発手順の整備と、フレームワークをベースとした標準アプリケーション基盤の整備や、フレームワークの保守と研修を柱に、顧客企業内の標準化を支援していきます(図)。

図. TERASOLUNAのオープンソース化計画の展開

